

第 39 回宇宙開発委員会 議事要旨（案）

（議事次第と重複する情報のため記載を省略）

5 出席者

宇宙開発委員会委員長

井口雅一

宇宙開発委員会委員

松尾弘毅

〃

青江 茂

〃

野本陽代

〃

森尾 稔

文部科学省大臣官房政策評価審議官

藤田明博

〃 大臣官房審議官（研究開発局担当）

板谷憲次

〃 研究開発局参事官（宇宙航空政策担当）

池原充洋

〃 宇宙開発利用課長

奈良人司

6 議 事

- (1) 宇宙開発に関する重要な研究開発の評価結果について LNG 推進系飛行実証プロジェクトの中間評価結果、準天頂高精度測位実験の事前評価結果最終とりまとめについて青江推進部会長より説明があった。

LNG 推進系飛行実証プロジェクトの中間評価結果、開発計画見直しについて、井口委員長より、文部科学省として責任を持って計画を進めるように、また、適切なタイミングでの宇宙開発委員会へのプロジェクト評価の依頼を忘れないようにとの発言があった。

奈良課長より、責任を持って計画を推進し、短い間隔で適切にチェックしながらその状況を宇宙開発委員会に報告するとの発言があった。（資料委 39-1-1、39-1-2 参照）

- (2) 光衛星間通信実験衛星「きらり」(OICETS) の定常段階終了及び後期利用段階への移行について

光衛星間通信実験衛星「きらり」(OICETS) の定常段階終了及び後期利用段階への移行について、独立行政法人宇宙航空研究開発機構堀川理事、荒井プロジェクトマネージャより説明があった。（資料委 39-2 参照）

- (3) JEM 運用及び利用サービス提供事業への民間活力導入について

JEM 運用及び利用サービス提供事業への民間活力導入について独立行政法人宇宙航空研究開発機構飯田理事、山浦部長より説明があった。

井口委員長より、本件の第一目標は、民間に事業を任せる点ではなく、コスト削減という点であるとの発言があった。

青江委員より、コスト削減の効果が出ないようなら、柔軟な仕組み変更も考えるべきとの発言があった。また、民

間の自主事業の部分についてはサービス提供の相手方を国内企業に限ることなく、海外等にも広く門戸を開くべきとの発言があった。

森尾委員より、事業主体を民間に固定するのではなく、JAXA でやるほうがメリットがあるという部分については JAXA がやるというように、柔軟に運用できるような契約にしておくべきとの発言があった（資料委 39-3 参照）

(4) あかりの現状と最近の成果について

あかりの現状と最近の成果について独立行政法人宇宙航空研究開発機構村上教授より説明があった。

（資料委 39-4 参照）

(5) その他

宇宙開発の現状報告

事務局より説明があった。（資料委 39-5-1 参照）

議事要旨

第 36 回宇宙開発委員会議事要旨（案）について、原案どおり了承した。（資料委 39-5-2 参照）